

学校研究概要

学校研究主題

自ら学びに向かい、課題を解決しようとする児童の育成
～自己調整学習のサイクル活性化を通して～

◆学校研究主題・副題設定の理由、研究仮説

昨年度は、学習者主体の授業づくりを進め、「ぐんぐんタイム」を活用して、児童が自ら学習を進める場面の充実を図ってきた。その中で、児童の「友達と話し合おう」「友達の考えを取り入れよう」といった主体的な学びの姿や、他者と関わりながら学びを進めようとする姿、自分の考えを見直そうとする姿が多く見られるようになり、学習に向かう主体性の基盤が育ちつつあることが確かめられた。また、指導者においても、児童の交流の様子や振り返りから思考の状態を見取り、学習のねらいに達成するためのアシストを行うことができるようになってきた。

一方で、児童の姿からは、自分の考えを広げたり深めたりしようとする目的意識が十分にもてず、形式的なやり取りにとどまっていたり、最初の自分の考えで満足し、考えのねり上げが進んでいない姿も見られたりした。また、「誰と交流することで自分の考えをより確かに行えるか」「今の自分にとってどのような関わりが必要か」といった視点をもって学び方や交流相手を選択する姿は少なく、学習方略を自己決定する力や、自己の学びを客観的に捉えるメタ認知の働きが十分に機能しているとは言えない状況であった。さらに、指導者にとっても、児童の学びをどこまで委ね、どの場面でのどのようなアシストを行うべきか、また単元の中で「ぐんぐんタイム」をどのように位置付けるかといった判断に課題が残った。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度は、児童が学習の目的を見通し、自分に合った学び方や考えを広げたり深めたりできる交流相手を自ら選択し、学びの過程を振り返って次の学びに生かすといった、自己調整学習のサイクルを活性化することを重点として取り組む必要があると考える。児童が自らの学びを振り返り、「なぜその選択をしたのか」「その学び方は目的に合っていたのか」を捉え直すことで、学習への動機づけが高まり、より考えを広げたり深めたりする学びへとつながっていくだろう。

また、指導者の見取りとアシストは、児童の自己決定を支え、メタ認知を促しながら学びの方向を整えていくための重要な手立てとして位置付けたい。児童の学びの段階や思考の状態に応じて適切に関わることで、自己調整学習のサイクルが円滑に回る授業づくりを目指していくと考える。

以上のことから、今年度は、自己決定を基盤とし、自己調整しながら学びに向かい、主体的に課題解決に取り組む児童の育成を図る。

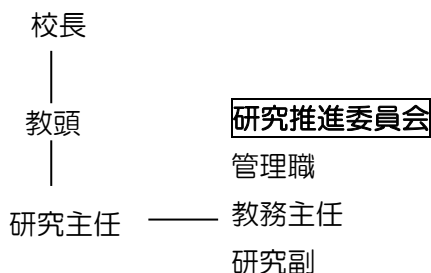
◆育成をめざす資質・能力

自己調整能力＝自ら学びに向かい、課題解決のために学びを自己決定する力

◆めざす児童像

自ら学びに向かい、課題解決のために自己調整能力を働かせる児童

◆研究組織



授業づくりチーム

- ・授業者主体の授業づくり
- ・研究授業整理会の運営
- ・ミニ研修会の運営
- ・学び集会の運営

基盤づくりチーム

- ・学習の構えづくり
- ・学びの定着(すくすくタイムの推進)
- ・環境整備

検証チーム

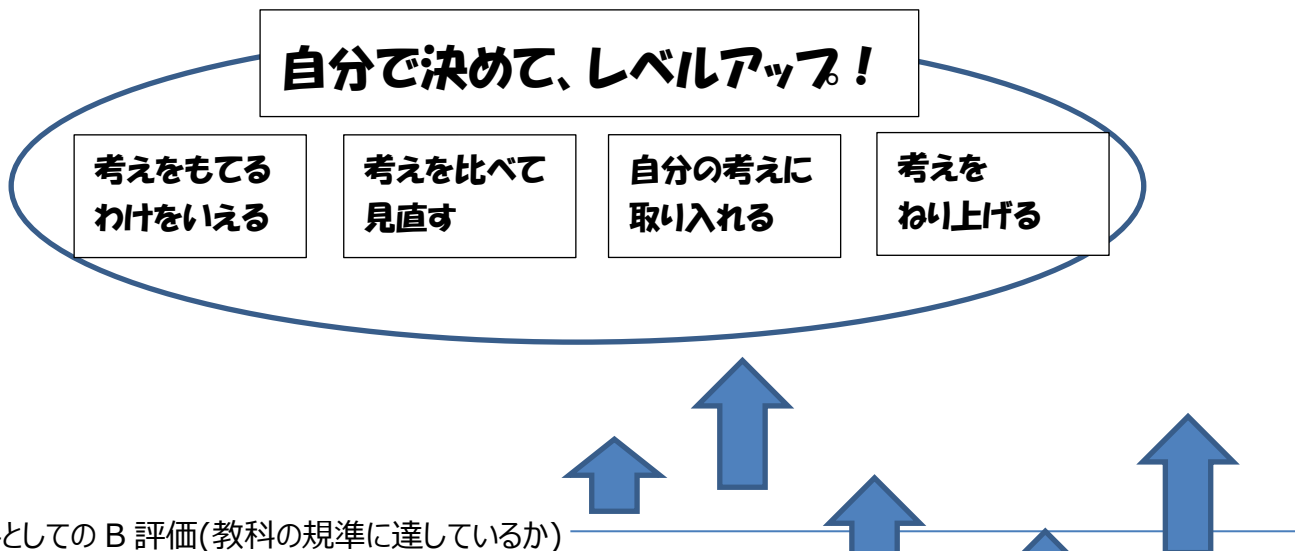
- ・学力調査における集計・分析、検証
- ・児童の意識調査や各種取組における検証

全体研 流れ

- ① 研究の概要
- ② 今後の予定
- ③ 目指す児童のゴールの姿についての具体化
- ④ 校長先生より
- ⑤ チーム会議

◆児童自ら学びを進める「ぐんぐんタイム」とは

1. ぐんぐんタイムでめざす姿



**C層の児童も、ぐんぐんタイムの
教え合いや学び合いによって自分の考えをもてたら、「レベルアップ」した
と言える。終末の考えの再構築の際に表現できたら○**

2. ぐんぐんタイムとは

1 時間または数時間委ねられる追究課題(唯一解ではない課題)に取り組み、
自分の考えをレベルアップさせる

※「学校研究」の要請授業では(算数), 理科を除く

※昨年度までの蓄積を継続

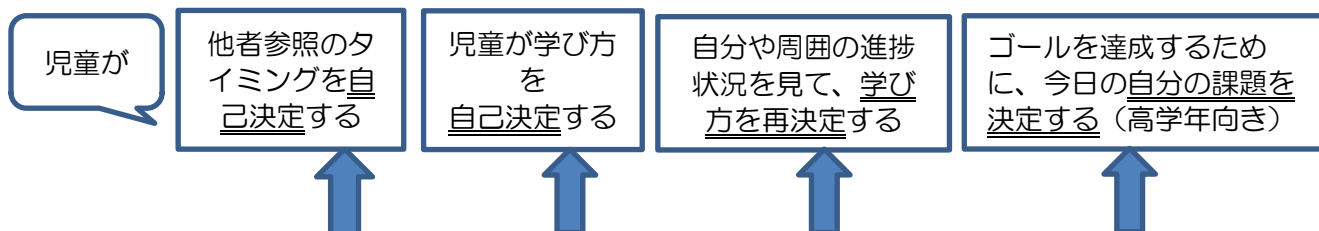
- ・単元デザイン(知識定着 → 委ねて思考)
- ・単元を通して「学びの合言葉(共通の軸)」を意識しながら思考する
- ・自力解決を図った上で自ら最適な学び方(何で, 誰と, どのように)を決定/または教師が規定
- ・ねらいに迫るための指導者の見取りとアシストがある

3. 研究の重点

重点① 根拠をもって自己決定するための手立て

見通しなくいつもの人とやる、ずっと同じ人とやる

最初の考えで満足する、形式的な交流
という状況にならないための自己決定



**児童がゴールに迫るための自己決定をする際に、教師がどんな手立てを講じるか
その具体を考えていく**(チェックシートをシェアして自分の課題を解決している友達と学び合うようにする、オクリ
ンクアラスで自分の立場をはっきりさせ自分と立場の異なる友達と交流し合うようにする、など…)

例：社会 学習の視点を選ばせるだけでは「ねらいにせまる自己決定」とは言えない

課題(江戸から明治への大きな変化には、どんな理由があったのだろう?)

視点(変化に関わっている人物, 歴史的出来事, 政治改革, 人物の思い)を選んで

学習のスタートに立つ。さらに、ねらいに迫るためにどのような自己決定をさせるのか 学びの方略もからめて、ゴールへ!

重点② 学びを自覚化するための振り返り ～本時の学びを自覚し、次時の学びを見通す～

- ・分かったこと、できたこと →どうして？
- ・分からなかったこと、できなかったこと →ここまでやったけど・・・
- ・はじめは～けど、～なった
- ・やっぱり～だった
- ・今日～だったから、次は～しよう

今年度は「ぐんぐんだけは必ず振り返りを！」ということで、単元内で積み上がらなかった →学びの実感▲「委ねる！」と決めた単元は、単元を通して振り返りが可視化できるとよい
ICTの同一のシート、1枚のワークシートなどを活用する
単元内で軽重をつけてやる

	なるほど	はっけん	これから	ひとことふりかえり
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				
⑫				
⑬				
⑭⑮				

単元のふりかえり

←三野先生 4年算数
ワークシート形式
単元末の振り返りもついています

↓池島先生 4年国語「一つの花」
ICTのワークシート
白色…一斉課題、色付き…自分がたてた課題
先生のコメント欄もついています

学びの合言葉	どの部分とどの部分からそう考える??		先生コメント
日付	学習の内容		
1	6月13日	お話のあらすじをたしかめよう。 短いあらすじを交流して、話し合いました。	
2	6月16日	登場人物について考える。 ゆみこ、お母さん、お父さんがどんな人物か話し合いました。	登場人物はどんな人たちでしたか？ 教えてくださいね！
3	6月17日	ゆみ子が「一つだけちょうだい。」をはじめにおぼえたのはなぜ？ ご飯の時でも、おやつの時でも、もっとももっと言ってほしがったらお母さんが口くせのように「一つだけよ。」と言うのでゆみ子はお母さんの口くせをおぼえて言ったと思いました。	小さな子はお母さんの口くせを見てしまいますよね。お母さんはどうしてゆみ子にたくさんものをわたしてあげなかったのでしょうか？
4	6月18日	なぜ、ゆみ子はおにぎりじゃなく、花でよろこんだの？ 「一つだけ。」と言いながら泣いたのでゆみ子はおにぎりではない一つだけの花をもらってもキョキキョキと足を、はたつかせてよろこんだと思います。	ゆみこはおにぎりじゃなくてお花でも喜ぶことができるくらいに少し成長してしまいたね。そんなゆみこを見てお父さんはいつかわかっていましたね。お父さんはどんな気持ちだったのかな。
5	6月19日	なぜ、ゆみ子の家はコスモスで包まれたの？ 「一つだけちょうだい。」と言ったらコスモスをくれたのでそれからゆみ子はコスモスが大好きになって家の前にコスモスをたくさん植えたんだと思います。	戦争中は1つしかなかったコスモスの花が戦争後はとんとんぶきの小さな花を包むくらいたくさんさいていましたよね。お父さんの「一つだけのお花、だいにするんだよ」という言葉をゆみ子はしっかりと守っていたのかも知れませんね。
6		お父さんが一つの花をあげたのはなんで？ お父さんは命を失うかもしれないから、一つのコスモスをお父さんと思ってほしくて「大事にするんだよ。」といった	戦争に行くということはまた帰ってくることができるかどうかはわからないということですよ。ゆみ子のことを大切に思っ

4. 検証方法

- ・児童アンケート、教師の振り返りを行い、取組の成果と課題を検証する
- ・研究授業、整理会を通して児童の姿として取組の成果が表れているかを検証する

◆研究全体構想図

学校教育目標

主体的に課題を解決しようとする児童の育成
～『自ら考え、自ら動く東湊っ子』～

学校研究主題

自ら学びに向かい、課題を解決しようとする児童の育成
～自己調整学習のサイクル活性化を通して～

学習者主体の授業づくり

児童が「学びたい!」と思う単元デザインの工夫、学習環境の整備、単元の見通しをもつための学習計画シート

学びの合言葉～共通の軸～をもとに考える

単元を通して、「学びの合言葉」を児童と共有する

予見

方略

内省

つかむ

単元のゴールや本時の課題を確認

考える

【個】じゅくじゅくタイム～自力解決を図る～

学び合う

まずは自己を知るために個で考える
(課題解決能力を高める、自己決定する際の根拠を明確にする)
※単元デザインによっては前時でも可



【個・協】ぐんぐんタイム～自己調整能力を働かせ、解決を図る～

研究の重点1

ゴールに迫るための自己決定



協働的な学び

ゴールに迫るために

なにで だれと どのように 学ぶか 自己決定する



個別最適な学び

学び方を

自分で決めて、レベルアップ!

教科の見方・考え方を

考えをもてる理由をいえる

考えを比べて見直す

自分の考えに取り入れる

考えをねり上げる

わかった! できた! よいよくなった!



振り返る

【個】ふい返る

研究の重点2 学びを自覚化するための振り返り

①できた・わかった・得意ポイント ②むずかしかった・苦手ポイント

③次ががんばること・気をつけること(方略について) →学習の行動と動機づけを次につなげていく



環境整備

- ・教室掲示提案
- ・研究に関する掲示物

基礎基本の定着

- ・すくすくタイムを生かした基礎基本の定着
- ・ロングすくすくを生かした習熟度別学習

学習の構え

- ・ばっちり7
- ・強化週間の設定

生徒指導との連携

- ・自己決定の場の提供
- ・安心、安全な風土の醸成
- ・共感的な人間関係の育成
- ・自己存在感の感受

学びの土台づくり